



利根中央病院だより

第50号 2019年 新年号

きらめき



発行責任者 利根中央病院 院長
 編集責任者 利根中央病院 事務長
 〒378-0012 群馬県沼田市沼須町910-1
 TEL：0278-22-4321（代表）
 FAX：0278-22-4393
 URL：<http://www.tonehoken.or.jp/>

年頭挨拶

新年明けましておめでとうございます。

昨年は社会保障制度の改悪が次々に行われました。入院食事代の引き上げ、療養病床65歳以上入院患者の光熱費の引き上げ、現役並み所得者の介護保険利用料3割負担、など患者・利用者の負担増が押し付けられました。

このような情勢の中でも、念願であった特別養護老人ホーム「とね虹の里」80床を開設することができました。「生協みなかみ歯科」は無料低額診療事業を開始し、高齢者の居場所づくりや子ど

院長 大塚 隆幸



も食堂の取り組みも着々と進んでいます。

また、利根中央病院・副院長の関原先生が救急の日に総務大臣表彰を受けられました。先生の才能と努力の結果であることは勿論ですが、活躍の場を共に支えた私たち職員の総合力が評価されたものだと思っています。

今年は亥年です。更なる飛躍のために、猪の如く逞しく邁進したいと思います。

亥年の年男・年女 からご挨拶

放射線室主任 小林 清子



明けましておめでとうございます。

6回目の亥年を迎えました。仕事も私生活も猪突猛進、ほとんど勢いだけでやって来ました。迷惑を被った方に深くお詫びいたします。

かわいいおばあちゃんを目指し頑張ります。

外来サービス課課長 綿貫 敦史



あけましておめでとうございます。

昨年は、院内外を問わず、皆様に格別なご高配を承り、誠にありがとうございました。

今年も、更なる努力と精一杯の対応をさせていただきますので、一層のご指導ご鞭撻をいただければ幸いです。本年も引き続き、よろしく願いいたします。

外来看護師副主任 関上 美紀



あけましておめでとうございます。

気が付けば、何回目かの年女です。月日が経つのは早いものですね。亥年はよく「猪突猛進」と言われます。確かに、私にもそんな一面がありそうです。

今年は焦らず、ゆっくり、落ち着いた一年を過ごしたいと思います。

視能訓練士 金子 晋也



今年度入職いたしました金子晋也と申します。振り返ると日々の業務でわからないことが多かったのですが、先輩方から学ぶことがとても多く、この1年間を通して少しですが成長できたと思っています。

今年亥年で、年男となります。今年も何事にも挑戦し、猪突猛進で取り組み、視能訓練士として、大人として成長できるよう気を引き締めてまいります。

臨床倫理委員会の紹介

～一人ひとりの価値観を尊重するために～

総合診療科 医長 比嘉 研



昨年3月に発足しました、臨床倫理委員会の紹介をいたします。

「当院で行われる診療行為等(研究を除く)の中で、臨床現場で発生する倫理的課題や、当院職員が医療に携わる上で疑問に感じた事項について審議し、提言または助言を行うこと」を目的として設立されました。これまでも医学的研究での倫理的審議は行われてきましたが、臨床倫理を扱う委員会を新たに設立した意義を述べたいと思います。

つい50年ほど前まで、医療行為は随分「シンプル」



でした。しかし医学の発展・医療技術の進歩と共に「患者に適応できる医療」と「患者が受けたい・受けたくない医療行為」に乖離

が生じていることは、皆さんも日々の診療で感じられているのではないのでしょうか。少子高齢化や地域共同体の変化も状況をさらに複雑にしています。

委員会が発足してからの10ヶ月間に、悪性腫瘍を初めて指摘された方が治療拒否をしている事例、意識障害で搬送された方の代理意思決定者が不在で今後の治療方針を決定しあぐねた事例などが審議課題として持ち込まれました。

先日「人生会議」という愛称が定められた「アドバンス・ケア・プランニング」や、その具体的な方法を示した「人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドライン」に重なる領域でもあり、今後ますます当委員会の役割が増していくことと思われます。

一人ひとりの価値観を尊重し「ただ一つの正解」に近づくことを目的とするのではなく、患者と家族、医療従事者が話し合いを繰り返し「今回の事例での模範解答」を探ることで、患者の意向に沿った医療を、ひいてはより豊かな地域医療を行う一助になればと考えています。



TJAR参戦記



外科医師 鹿野 颯太

トランスジャパンアルプスレース (TJAR) という大会をご存知でしょうか。端的にいうと『日本海／富山湾から日本アルプスの北アルプス・中央アルプス・南アルプスを縦断して太平洋/駿河湾までの約415キロメートルを8日間以内に自分の足で踏破する日本一過酷な山岳レース』です。山岳ランナーの憧れの的となっている大会で、今年8月、わずか30名の少ない出場権を掴み取り、完走27人中8位(7日間4時間23分)で無事に完走を果たすことができました。

普通の登山者であれば1カ月はかかる行程で、食料の購入が認められている他は一切のサポートはなく、衣食住のすべてを限界まで削り5～7kgの荷物にまとめます。3000m級の山々の危険な登山道、雷雨などの悪天候、極度の肉体疲労、これらを己の技術・判断で乗り越えていかななくてはなりません。裏を返せばそれがこの大会の魅力でもあり、他では



絶対に得られない経験ができます。

今年の大会は時おり暴風雨や雷雨があり、停滞を余儀なくされることもある天候でした。私自身も北アルプスでは雨風に体温を奪われ胃腸の調子を崩し、まともに食事が摂れず苦しむこともありました。5日目は暴風雨・雷となり多くの選手が不調に陥る中、私は準備した装備に助けられ体力が回復し、その後はレースが楽しくて仕方がなく徐々に調子が上がっていきました。南アルプス塩見岳では6日目にして初の晴天となり、最初に登頂した北アルプス剣岳からこの大会で越えるすべての山々を見渡すことができ、日本を綺麗なラインで縦断するこの大会コースの壮さが心に刻まれました。

次回は2年後、選手として参加するかはまだ分かりませんが、心に刻まれるような経験をこれからも追い求めていきたいと思います。



開会式



右 鹿野 Dr



ゴール後のインタビュー

「まさか」に備えるために 第12回災害訓練



11月10日（土）に総勢約190人が参加し「利根沼田地域の局地的な地震」が発生した想定で院内災害訓練が行われました。

近年は「まさか」と思うような場所・タイミングで自然災害が発生しています。

利根沼田地域でも「まさか」が起きるものとして、災害に対する危機感を病院全体で共有し、もし災害が起こった場合でも「あってよかった利根中央病院」と思ってもらえるよう努力していきます。

緩和ケア研修会



緩和ケアのパイオニアともいえる原 敬先生（さいたま赤十字病院緩和ケア診療科部長）に「苦しむ患者・家族にどう向き合うか？」というテーマでご講演いただきました。医療はめまぐるしく進歩していますが、その一方で病いと治療に向き合う患者さんはつねに不安や苦しみを抱えています。私たちは患者さん・ご家族の苦しみを少しでも和らげることができるよう、これからもともに向き合っていきたいと思います。

きらめき トピックス

民医連ピースリレーマラソンに参加

放射線技師 中村 文彦



11月24日（土）、大阪府堺市の浜寺公園で3年に1度行われる各県連対抗のリレーマラソンに参加しました。

群馬県チームは5人で襷を繋ぎ36チーム中5位で、みごと入賞する事ができました（過去最高です）。全員持てる力をすべて使いきり酸欠ぎみでしたが上位で走りきる事ができました。次回はみんなで練習して3位以内を目指してがんばろうと思います。

デスカンファレンス開催



2018年7月から病院と地域・在宅で連携したケースを中心に「デスカンファレンス」を始めました。最近では、がん終末期の患者さんも住み慣れた自宅で最期まで過ごせるように在宅療養の支援を行っています。デスカンファレンスは“その方の生き方に寄り添ったケア”が提供できたか振り返り、病院や地域で活動する他職種間で学びを深める機会になっています。